

《議事録》

- 1 用 務 第2回ながさき森林環境基金管理運営委員会
- 2 日 時 平成27年10月22日(木) 13:00~17:00【現地調査】
平成27年10月23日(金) 9:00~12:00【会 議】
- 3 場 所 1日目【現地調査】長崎県対馬振興局管内(別紙参照)
2日目【会 議】対馬市交流センター3階第1~2会議室
- 4 出席者 別紙のとおり
- 5 議 題 1日目 【視察】県営林九十九谷~県営林オバル~久田港
2日目 【会議】①森林整備室長あいさつ
②ながさき森林環境税事業について
(1)H24~27年度ながさき森林環境保全事業実績について
(2)他県の取り組みについて
(3)今後のスケジュールについて
③その他

6 内 容

【視 察】

別紙のとおり

【会 議】

①森林整備室長あいさつ

・別紙のとおり

②ながさき森林環境税事業について

(1)H24~27年度ながさき森林環境保全事業実績について

◆未整備森林緊急整備、環境保全緊急整備についての説明

- ・公有林を今の制度の枠組みのもとで対象にするのは問題ないか。(吉田委員長)
- ・当初始めたとき公有林と私有林の整備率の差があったので、まず、個人有林に投入して差をつめましょうということになった。(永田参事)
- ・優先順位を決めるといふことか。(吉田委員長)
- ・そうです。ただ、公有林をいれたら成果がものすごく上がっていくんだろうが、ほんとにやめるべきかご意見をいただきたい。(永田参事)

・未整備林が少なくなって来ているのは公共予算が少なくなっているのが影響しているのか。(成清副委員長)

・公共予算の関係が減ってきていることではない。全体的に搬出間伐にシフトしてきているということだろう。(内田室長)

・公共予算を継ぎ足して100%にしている。これは公共予算がついて初めて環境税を使う

ということか。(成清委員)

・そうです(永田参事)

・森林整備を進めるにあたっては国の予算をできるだけ活用しましょうというスタンス。
(内田室長)

・間伐を見たが、あれを続けていくと最後まで間伐か。(割石委員)

・そうです。(内田室長)

・用材として出すことはないのか。間伐という名がつけば買い叩きするのじゃないのか。
(割石委員)

・それはない。国の制度が皆伐に補助がないのが現状。間伐だったら国の補助がある。(内田室長)

・使う・買う方とすれば30cm以上は買う時に何割かプラスになる。大きいのを抜いて と
かしないのか。(割石委員)

・なかなか大径需要というのはあまりない。県森連は径級によって仕分けしてないか。(内田室長)

・選別せずに伊万里市場で自動選別機にかけて径級別に出る。一概に大径木材だけ集めた
いわけではないが、ある程度の仕分けはできる。(成清副委員長)

・もったいない(割石委員)

・間伐材といっても、買う人はわからないと思う。(成清副委員長)

・昼食会場の横に鉄筋コンクリートの建物があったが、木造で立てるという行政同士の話
し合い、木材を使うという検討をする余地があったのではないか。対馬にこれだけの木材
があるのにもったいない。(割石委員)

・その辺はしっかり行政同士が連絡とりあってタックを組むべきところだったのだろうと
思う(永田参事)

・地元が使わんといかん。PRするために対馬材でああいうのを作って、こうできますよ。
とPRするのが本当の行政ではないか。(割石委員)

・環境保全だが、市町がなかなか仕事ができない、経費がかかる。のであれば、当然見直
す必要があるのではないか。(成清副委員長)

・haあたりの整備費が、間伐するのに30~40万。その1haを調査するのに50万以上
かかるという矛盾がある。今後、どうやって所有者を特定するか課題。森林組合申請型
で頼むというのもあるが、搬出間伐が減ってくるという矛盾があるので悩んでいる(内田
室長)

・国土調査ではそこまでできないのか。(割石委員)

・組合の意見としては国土調査が終わっていても難しい(成清副委員長)

・環境保全型については、あまりにも計画と実績がかけ離れているみたいだが。(古藤委員)

・森林組合の申請型がダメだというのはやはり公共的なものだから、市町がして県が発注
するという考え方か(成清副委員長)

・行政と森林組合がやるところを分けた。(内田室長)

・県がやっても進まないところで、市町の協力を得ないと進まないのでは。という意見を
いただいての制度。制度設計がうまく言ってなかったという結論になるが。(永田参事)

・対馬は大体の所有者と境界がわかるが、内地の方は自分の山がわからない人ばかり(内
田室長)

・私たちに当てはめると（舟志地区）市町が地区にお金を出すから境界を作成してくれ。ということになり、何人が集まれば、境界がわかる。そういうかたちであれば、割りとかかるのではないのか。（古藤委員）

・未整備森林緊急整備事業と環境保全林緊急整備事業のH24～26年度の実績を見てわかるとおり、地域がしっかりと入っているところは伸びている。市町が協力的なところは伸びている。そうでないところは落ちている。（永田参事）

◆林内路網緊急整備についての説明

・路網整備が高密度になりすぎているというのは、お金があるからどんどん作っちゃえということなのか。（加固委員）

・タダだったら高密に入れたほうが作業はし易い。生産性をあげていくというところでのいい傾向ではあるが、やりすぎのような気もする。8割、9割補助になれば効率的に道を入れようとするのかもしれない。（永田参事）

・メーター3,000円くらいか。（成清委員）

・2,000円が上限。平均的な単価は1mあたり1,600円くらい。（内田室長）

・公有林切り捨てて道路がなかったらどうにもならない。してくれる人がいない。一番お金がかかるところだから道路がないことにはしないのではないのか（割石委員）

・市町の財政は結構厳しいので担当としても公有林はぜひ。という話もある。ただ、優先順位というところではずしていた。県民の税金なので、県に使うよりは私有林にまわすのが原則かと。県の山に使っているというのは抵抗がある。（永田参事）

・山が吉岐とはちがう（割石委員）

・もともと、県営林は特別会計でやっている。当然皆様方からの税金。そこに、環境税という税金を投入すると、二重の税金だ。という話もある。（内田室長）

・民有林は路網整備をしてもらってコスト削減をはかって森林整備者にいくらかでも返さないと進まない。環境税が80%になると森林所有者に返せる金額が少なくなる。長崎県の民有林が抱えている問題は材価がものすごく下がっているから所有者に返せない。「お金を出すのであれば、しなくていい」といわれ、林業自体が成り立たない。なので、路網整備が100%でできるということで成り立っている（成清副委員長）

・切捨間伐と作業路網の数量について（資料説明）森林所有者の負担があってはなかなか森林の整備がすすまない。荒廃している森林が整備されない。ということで森林環境税をいただいているので、切捨をやめるといふ話にはならない。延ばすためにはどうしたらいいかというのが頭の痛いところ。（永田参事）

・林業の成長産業化ということで補助金がたくさんついている。ただ、本業の林業を産業として成り立たせるためには、いつかは補助金を無くさなければならないというのが国の考え方。もう少し効率的な作業をしていただきたい。いつまでも税金は続かない。（内田室長）

・「一般的に環境税が森林に使われているところはどういうところですか」と聞かれるが一番見えるのは路網。そういうところに、環境税は使われているという認識が県民にあれば税金のムダにはなってないのではないのか。（宮川委員）

◆しまの間伐促進についての説明

- ・対馬の対象の継続の問題があるが（吉田委員長）
- ・基本、丸太ということで間伐の補助金だが、これは製材ということも考えられているのか（成清副委員長）
- ・対馬市はすでに活性化交付金でやっている。島内の需要や活性化がある一方で、わざわざ高い島内の製材所へだすよりは島外へ。と補助金を出すことによって島内の木材の流れを阻害している事実があれば、見直しも考えないといけないのではないか。10年続く補助金だが、今後も継続していくべきか。五島は少ない。対馬については役割を果たしたという気もしている。（永田参事）
- ・対馬の間伐促進は1 m³2,000円。根拠は、船一艘輸送経費は65万。積載量約350m³。試算して1,900円くらいなので、2,000円にしている。対馬から内地に持ってくる分だけ。輸出する分には補助はない。五島はなかなかまとまる量が出てこないの、コンテナに積んでトラックで輸送しているのでコストが高つく。（内田室長）
- ・対馬の北のほうは、1日1回から1回半くらいしか運べない。上から下に運び出すことはほとんどない。運賃がかかりすぎて、手取りがない。どこの港に出しても海上輸送費は変わらない。近くに出せるからいいのであって、補助がなくなると皆さん手をつけなくなると思う。「木を売って、そのお金をつぎ込んで、補助がないのに再造林してなにになるのか。それよりもほったらかしていたほうがいい」（古藤委員）
- ・これは、国内であればどこでもいいのか（成清副委員長）
- ・そうです
- ・伊万里を想定して作られたと思うが、合板関係で島根に対馬からもって行くことにしている。上限が2,000円つくということか。（成清副委員長）
- ・そうです。対馬に大きな製材工場、1年間に1万m³ぐらいいは引ける中核の製材工場ができた。県も補助金を出して島内需要を高めてもらうよう運営しているが、行政としてはそこに材を集めたいという目的。そういったときに、そこに集めたいという思いと島外に出して補助をやるという矛盾が出る。その製材工場に島内需要を。それを超える部分については支援をしてあげてもいいのではないかと考えている。（内田室長）
- ・補助をだして、「〇〇から〇〇までだったら1,000円出します」などがあれば、少しは変わるかもしれない。（古藤委員）
- ・政策や補助金の絡みもあるので、条件が変わって対馬間伐促進がうまく回らないようであれば、見直しもありなのかと思った。（吉田委員長）

◆ながさき県民参加の森林づくりについて説明

- ・活動を活性化させるための支援の検討が課題としてあげられているが、今の時点で具体的に何か考えているか。（入口委員）
- ・まだ考えていない。こちらでお手伝いできるような課題、それに対する支援みたいなものができればと思っている。（永田参事）

- ・団体から声が上がったときに、それを検討するのか。(入口委員)
- ・今回は聞かないといけないと思っている。活動をしていない団体はなぜ活動をしていないのか意見をいただいて、できるだけ対応していきたい(永田参事)
- ・これからということか(入口委員)
- ・はい。ボランティア団体としてこういう支援があればいいな。というのがあればお聞かせ願いたい。(永田参事)
- ・森林ボランティアの活動以外に結構活性化されているなという気はする。毎年意見交換会の中で、新しい団体、新しいパートナーを見つける、リーダー要請などが今後必要になってくると思う。(佐藤センター長)
- ・県民参加の森づくり(公募型)は従来の森づくりの規定をそのまま適用して対応するのか、今の補助事業にあわせたような感じで規定づくりをするのか、そういったことでこれは対応しましょう。という考え方か。(豊田委員)
- ・その辺をご提案いただければ。環境税については、苗木、坑木については支援をするが、スタッフが働く分は出ない。国の事業は、そこにお金がついてくる。県民参加の森づくりの考え方を通していくのであれば、森づくりをするのに、みなさんに汗をかいていただきたい。という思いからすると、スタッフに対する支援は難しいのではないか。(永田参事)
- ・国のは、食事代など、ちょっとしたことも出せたか。(吉田委員長)
- ・最初は出せたが、途中でなくなった。(内田室長)
- ・県の事業のときよりも増えているので、国の事業がなくなった後にこの枠組みを使うのであれば、ある程度出すべきところは出してあげてもいいのでは。制度が活発になることが非常に重要という気がする。国の制度があるうちは、とりあえず休止でいいのではないか。(吉田委員長)
- ・古藤委員からは何かないか(内田室長)
- ・企画してやっていくスタッフの方に負担がかかりすぎる。集まって何かやるにもお金がない。弁当代がない。「今日はきつかったね。次はどうしようか」という会をするにも(責任者が)手出しをしていかないといけない。そしたら、バカらしくなり、やらないほうが一番楽。自分だけや、何人かだけが一生懸命になって、何回も続くとだんだんこなくなつて。だから、活動はやめよう。ということになって。地区のためになることだったら、自分たちでイベントでやるが、決まったことをいつまでもしないといけない。ということになると、負担が大きすぎる。人を集めて、自分がお金をだす。何もかもをしないといけない。最終的にはやめよう。ということになった(古藤委員)
- ・1,000円でも2,000円でもだせればそれで成り立つ。(古藤委員)
- ・今すぐどうこう変えるという話ではないが、こういった意見も踏まえて今後、もしこの制度が復活するようなことがあれば(吉田委員長)
- ・これら人たちのガソリン代(ほとんどが年金生活者なので)くらいは、出してあげたら。という気持ちはある。(加藤委員)
- ・まさに、それほどの費用であれば、県民の方たちもクレームをつけないという気はする。

(吉田委員長)

- ・植樹祭をしたが、それを1日で終わらせないといけないので、何日も準備して。昼食代だけでも。と皆いう。人を集めるのは大変(古藤委員)
- ・税金としての趣旨と、実際に運用する際の相互の違いは若干あると思うので、検討材料として貴重は意見かと思う。(吉田委員長)

◆ふるさとの森林づくり(市町提案型事業)の説明

- ・委託費の割合が大きいものもあるが、委託費を何に使ったかを明確にしなくてもかまわないのか(吉田委員長)
- ・全部チェックしている。(永田参事)
- ・本体が厳しくなると委託で逃げてしまうことがあるので、内部をしっかりと調べられているのであれば問題ない。(吉田委員長)
- ・資料をみて、計画・実施・達成率とあるが、金額の計画というのものもあるのか(成清副委員長)
- ・金額の計画というわけではないが、集めたお金の配分はある。(永田参事)
- ・実績はわかるが、金額の計画と実績も一緒に記載することはできないか(成清副委員長)
- ・県が組む予算書上では、年度ごとに組むが未整備、環境保全、林内路網で年間3億程度(永田参事)
- ・それぞれメニューごとにはしないのか。(成清副委員長)
- ・毎年4億程度で使っていこうと想定しているので、計画としてはそれくらい(永田参事)
- ・だせないことはない。(内田室長)
- ・面積、実績、金額の比率の違いもでてくるかもしれないので、ぜひお願いしたい。(成清副委員長)
- ・わかりました(永田参事)

◆広報活動についての説明

- ・環境税をとっていることに対してネガティブな意見は県庁に届くことがあるか(吉田委員長)
- ・あからさまなネガティブな意見はない。(内田室長)
- ・28年度は3期目に入るが、広報活動で具体的に考えていることはあるか(成清副委員長)
- ・周知は難しい(永田参事)
- ・大人は普段から情報量が多く、新しい情報は入ってきにくい、子供向けの冊子などを作って家に持って帰ってもらう。県全域で500円集めてこういうのに使われている。ということ、家で親・祖父母と話してください。というのがあれば、少しは周知できるので

はないか。全員に伝えるのはなかなか難しい。良い話というのは伝わりにくい。他の県を見ても周知率2割はそんなに低くない。それ以上あげていくのは難しい。

(吉田委員長)

- ・法人と個人の割合はどれくらいあるか。(成清委員)
- ・8割くらい。(内田室長)
- ・ほぼ個人、企業は少ない(永田参事)

(2)他県の取り組みについて

・他県、条件が様々なので人口がどこに集中しているかで使い方が変わると思う。茨城などは県民の理解を得るための努力、見える事業にする。というのが出ている。

鳥獣害にお金を使っているところが多い(吉田委員長)

・本県の中ではふるさとの森づくり(市町村提案型)のなかで、国の予算が足りない分を補填したり、バッファゾーンの増設など市町がやりたいというものを取り組めるような制度にしている。(永田参事)

(3)今後のスケジュールについて

- ・30Pのスケジュール案で異議なし

③その他

・森林環境税を延長すべきかどうか。やってみたい事業はないか意見をいただきたい。(永田参事)

・路網整備についてはぜひ継続していただきたい(加固委員、成清副委員長)

・森林の大切さやすばらしさを県の人たちに普及するためにも継続する意味はあると思う。(成清副委員長)

・一人 500 円の税金は当然出すものだと理解してもらえるような方法。ひとつではなく、自分の生活に直結していると自覚できるような広報活動をやっていけばよいのでは。(入口委員)

・周知も、森、里、海と関連付けて。(成清副委員長)

・テレビなどで特集しているが、興味なければ見ないだろうからそこをどうするか。(入口委員)

・どんな出来事でも全員が知るということはおそくないので、どれくらい達成されたらよいか、コンセンサスがあればいいのではないか。(吉田委員長)

・県民目線でいうと、500円は他県でも広まっている、額も他県並み、内容もしっかりしているので問題ない。(吉田委員長)

・国の環境税はどうなっているのか。(成清副委員長)

・森林収入源は入らない(内田室長)

・間伐が行われるたびに、森林環境が変わってきたと思うので続けてもらいたい。不在地主も多いので、用地交渉なども地区で取り組んでいくので続けていただきたい。(古藤委員)